

## 1. コンバートできないケース

### ・メモリリンク DIO タイプの接続の場合

メモリリンク DIO タイプ（パラレルタイプ）の場合は、現行機種への置換えができません。

接続構成を 232C/422 タイプに変更（計算機リンクユニットを増設するなど）する必要があります

### メモリリンク DIO タイプの見分け方

以下の a～d でタイプを判断してください

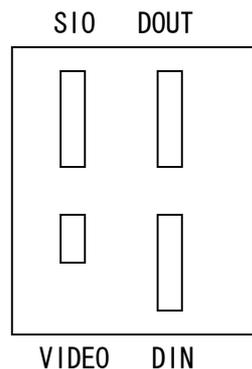
#### a) 本体型式（GP410 の場合）

GP410-EG11・・・メモリリンク DIO タイプかメモリリンク SIO タイプ

GP410-EG11-Lx・・・リンクタイプ（PLC 接続タイプ）

例：LA→三菱 LC→欧姆 など

#### b) 接続しているポートの確認



GP 本体の裏側

PLC へのケーブルはどのポートに接続されていますか  
DOUT/DIN のポートから（2本のケーブル）

・・・メモリリンク DIO タイプ

SIO のポート（1本のケーブル）

・・・メモリリンク SIO タイプかリンクタイプ

#### c) 画面データでの確認（FD 等でデータがある場合。ファイル拡張子で判別）

.GPM・・・判別不可

.GPF・・・判別不可

.MTM・・・メモリリンク SIO タイプかメモリリンク DIO タイプ

※DIO タイプは拡張子では判別できません。

.Lxx・・・リンクタイプ（PLC 接続タイプ）

#### d) PLC のユニットで判断

現在の機器接続マニュアル記載の以外の機器構成

・・・メモリリンク SIO タイプかメモリリンク DIO タイプ

## 2. 図形のずれについて

GP シリーズ毎に描画処理の速度が異なるため、以下の描画を使用時に塗り込み漏れが発生する場合があります

- ・ 円+塗り込み
- ・ 円弧+塗り込み
- ・ 扇形+塗り込み

### 主な問題点

- ・ 置換え GP で「塗り込みが漏れる」  
→実際に置換え対象の GP に転送し、表示を確認しない限り塗り込み漏れが発生する  
かは分からないので、実機にての確認が必要になります。  
円／円弧／扇形+塗り込み使用時は塗り込み漏れの可能性がありますので、塗り込みが漏れる場合は、円+塗り込み→円：パターン等への編集が必要になります。

### 3. 32 ビットデータの注意点

データ格納順序

GP10 シリーズ

D100	1234	上位		
D101	5678	下位	GP 上での表示	12345678

GP2000 シリーズ (32 ビットは L/H タイプの PLC 三菱、松下など)

D100	1234	下位		
D101	5678	上位	GP 上での表示	56781234

上記の様にアドレスの上位下位が逆転するため、以下の画面変更/対策 D スクリプトが必要です

対象タグ : N タグ、K タグ

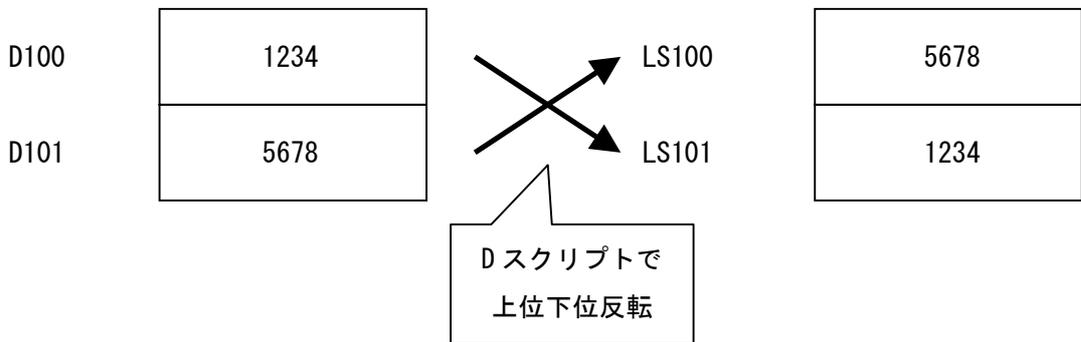
対象 PLC : (3) の補足を参照ください。

1) N タグ使用 (32ビット) の場合

**N タグの変更**

N タグアドレスを D100→LS100 に変更します

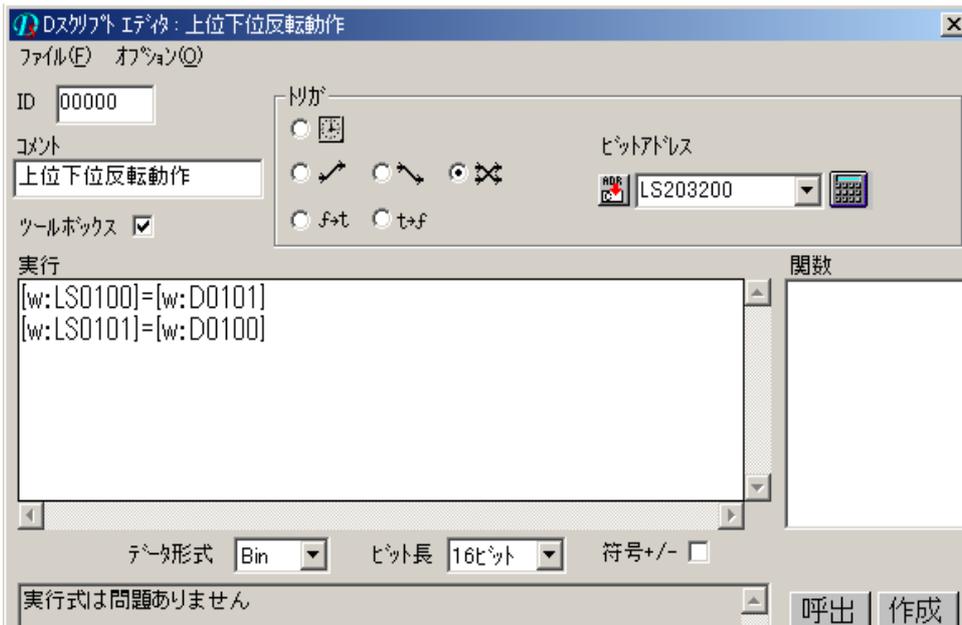
※ユーザーで使用していない LS エリアを選択してください



**D スクリプトの変更**

D100 のアドレスを LS101 に、

D101 のアドレスを LS100 に格納 (上位と下位を逆転して格納) します



トリガ : LS203200・・・PLC⇔GP の通信 1 周期毎に実行

実行式 : アドレスを逆転させるための D スクリプトを 1 ワード毎に設定

## 2) K タグ使用 (32 ビット) の場合

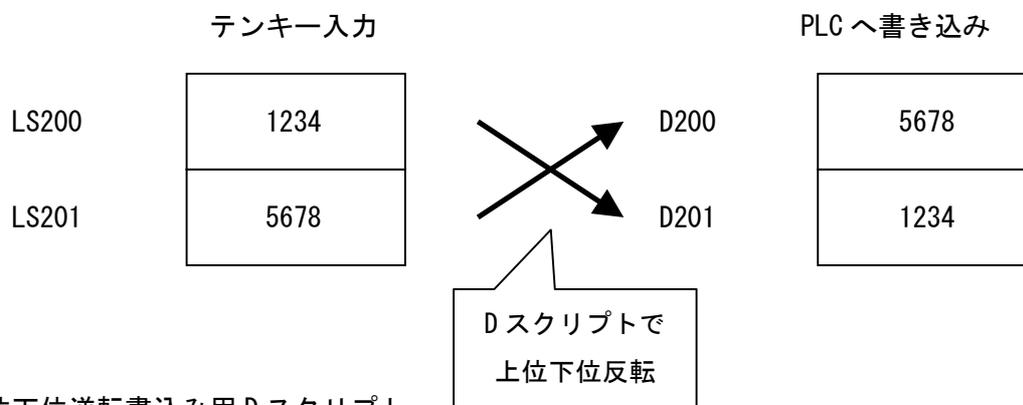
K タグアドレスを D200→LS200 に変更します

※ユーザーで使用していない LS エリアを選択してください

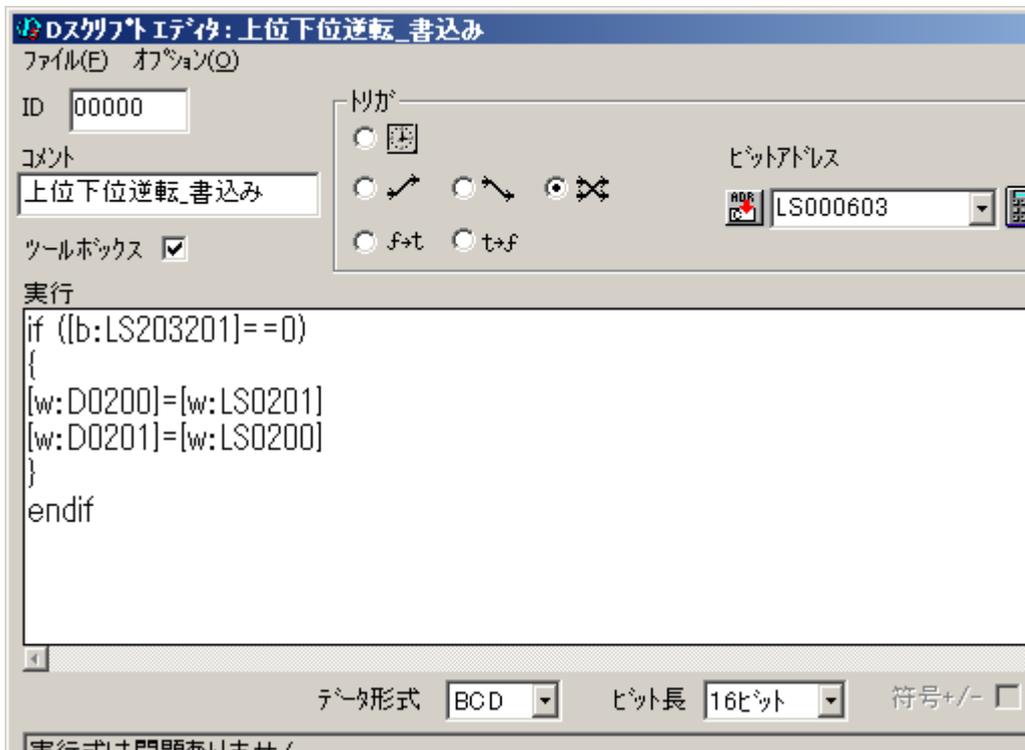


※K タグ書き込み用、読み込み用それぞれの D スクリプトが必要です

### K タグ書き込み用 D スクリプトの変更



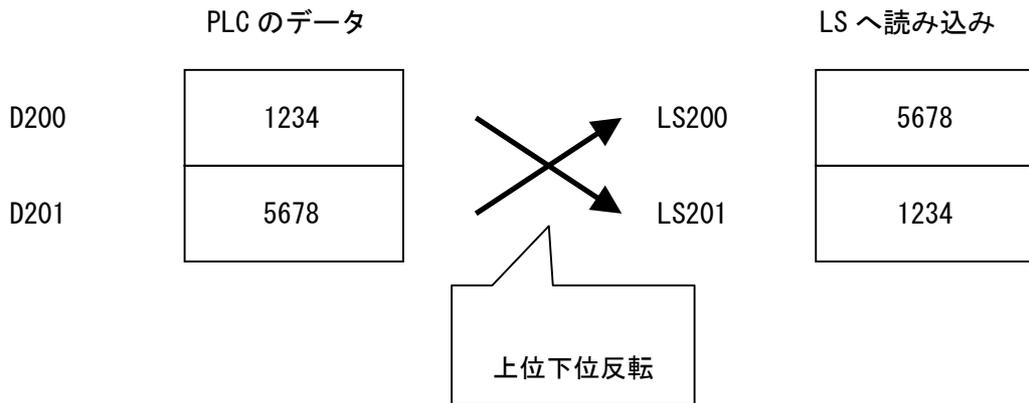
### 上位下位逆転書き込み用 D スクリプト



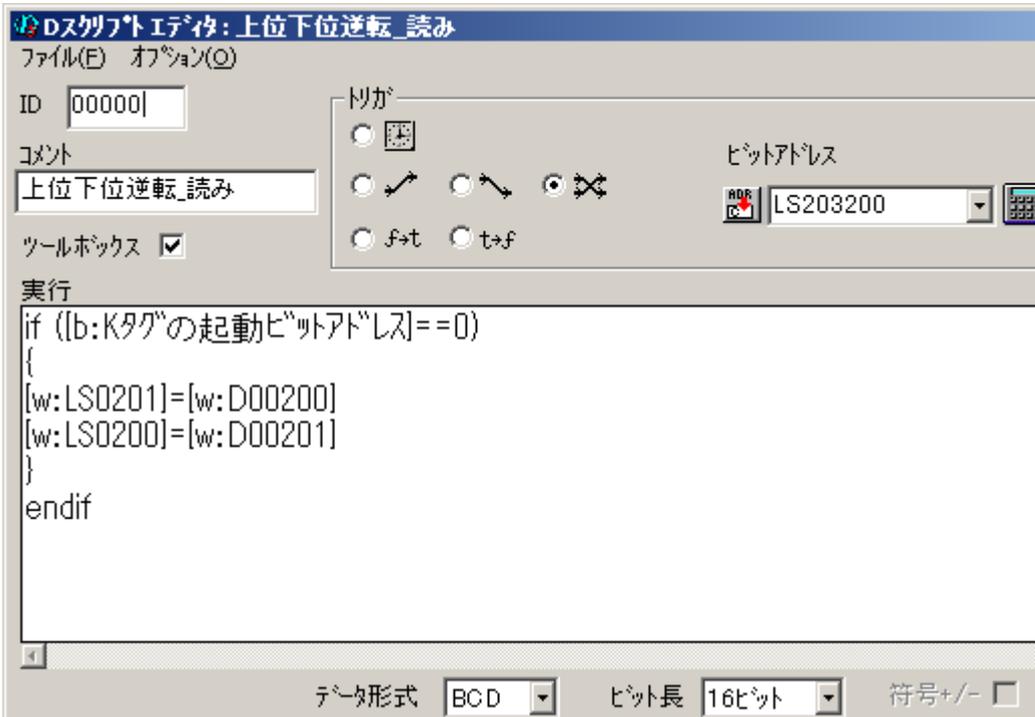
LS603 : キーボードの ENT キーを押した時点で反転するビットです。したがってテンキー入力毎に上記 D スクリプトが実行されます。

LS203201 : 画面切り替えからタグ処理が完了するまでの間 ON するビットです。  
 上記 D スクリプトは、トリガビット両動作の場合はビットの変化が無い状態でも画面切り替え直後は実行されるので、LS→PLC への書き込み処理を最初の 1 回目だけ処理を行わない設定となります。

**K タグ読み出し用 D スクリプトの変更**



**上位下位逆転読み出し用 D スクリプト**



LS203200 : PLC⇔GP 通信毎にビット反転します。したがって、通信毎に K タグが入力可能状態 (K タグ起動ビットが ON) でなければ上記 D スクリプトが実行されます。

### 3) 補足

※32 ビット L/H の PLC 確認方法

機器接続マニュアル

■ MELSEC-N シリーズ (AnN/A2C/A1S/A3H/A0J2/A1SJ/A2SH/A1SH/A2CJ-S3)

   は、システムエリアに指定可能

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	備考
入力リレー	X0000~X07FF	X0000~X07F0	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">***0</span>
出力リレー	Y0000~Y07FF	Y0000~Y07F0	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">***0</span> *1
内部リレー	M0000~M2047	M0000~M2032	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">÷16</span>
保持リレー	L0000~L2047	—————	
特殊リレー	M9000~M9255	M9000~M9240	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">÷16</span> *2
アナンシェータ	F000~F255	F000~F240	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">÷16</span>
リンクリレー	B0000~B03FF	—————	
タイマ (接点)	TS000~TS255	—————	
タイマ (コイル)	TC000~TC255	—————	

L/H

ここが L/H になっていれば対策が必要

#### Case1 : 32 ビット BCD で 4 桁設定の場合

GP10 シリーズ

D100	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">××××</span>	←このアドレスは未使用	
D101	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5678</span>	N タグ D100、32 ビット 4 桁	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5678</span>

GP2000 シリーズ (32 ビットは L/H タイプの PLC 三菱、私研など)

D100	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">××××</span>	←このアドレスは未使用
D101	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5678</span>	

D101 に入っている内容をそのまま表示すればいいので、

N タグ D101、16 ビット 4 桁 5678

※この場合、N タグのアドレスをずらす (+1 する) ことで N タグ/D スクの対策は不要となります

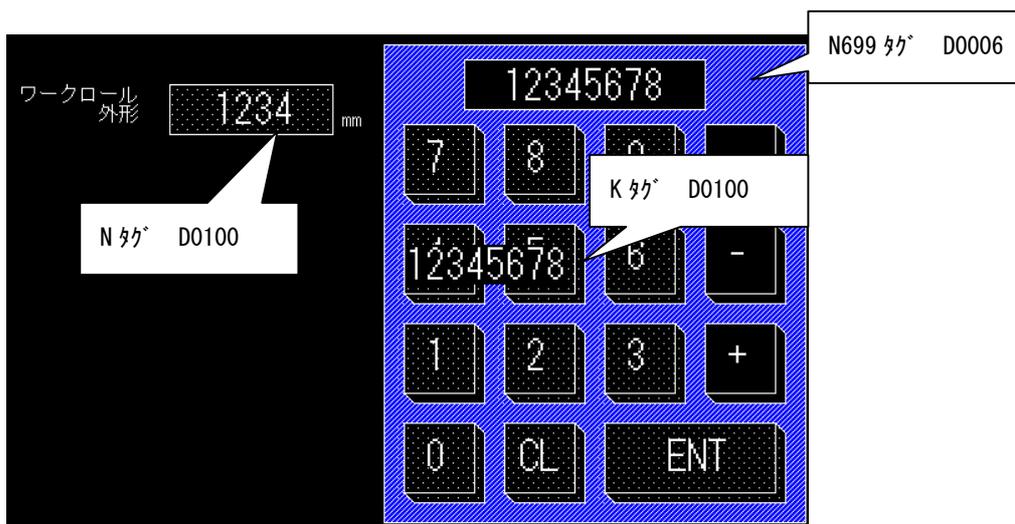
## 4. テンキー設定について

以下の場合、画面変更が必要となります

- ・ N699 タグが設定されている画面

変更内容：各 Case を参照

**Case1：N699、Kタグ、Nタグ 16 ビット各 1 個（KタグとNタグが同一）の場合**



N699 タグ D0006 32 ビット BCD 8 桁

K タグ D0100 32 ビット BCD

N タグ D0100 16 ビット BCD



**N699 を削除、K タグを N699 タグが配置してあった位置に移動**

~~N699 タグ D0006 32 ビット BCD 8 桁~~

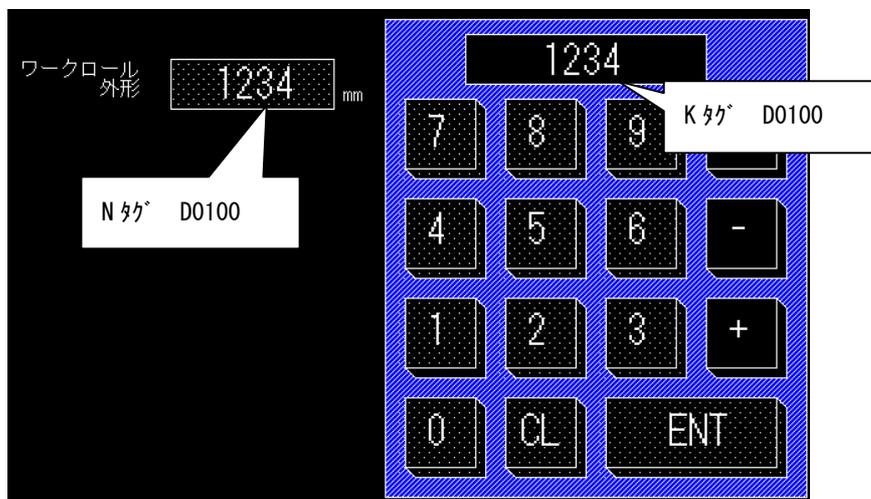
削除

K タグ D0100 16 ビット BCD 4 桁

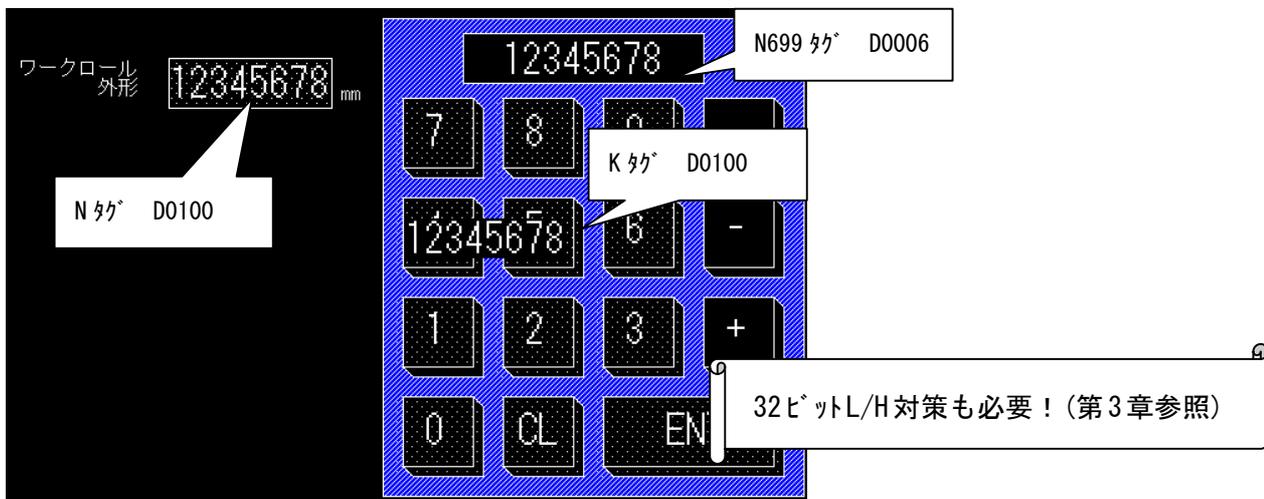
N699 タグを削除した位置に配置

N タグ D0100 16 ビット BCD 4 桁

そのまま



**Case2 : N699、Kタグ、Nタグ 32 ビット各1個 (KタグとNタグが同一) の場合**



N699 タグ D0006 32 ビット BCD 8 桁

K タグ D0100 32 ビット BCD 7

N タグ D0100 32 ビット BCD

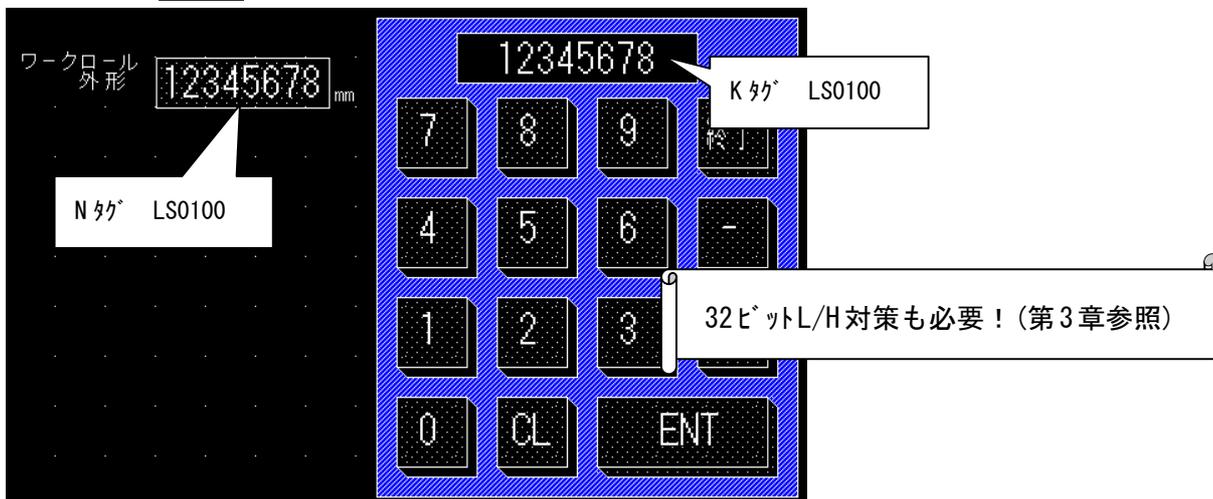


**N699 を削除、K タグを N699 タグが配置してあった位置に移動**

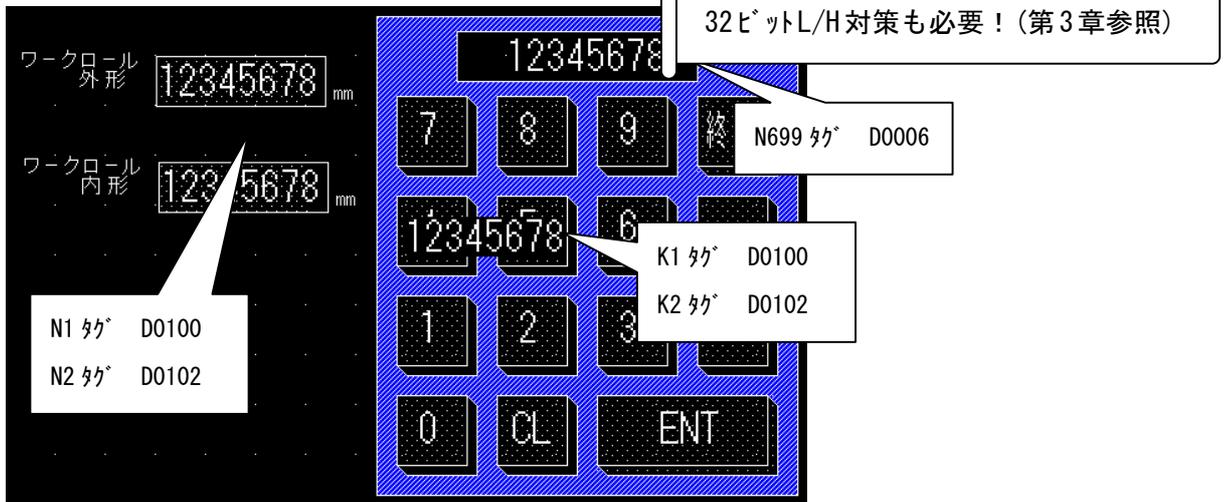
~~N699 タグ D0006 32 ビット BCD 8 桁~~      削除

K タグ LS0100 32 ビット BCD 8 桁      N699 タグを削除した位置に配置

N タグ LS0100 32 ビット BCD 8 桁      そのまま



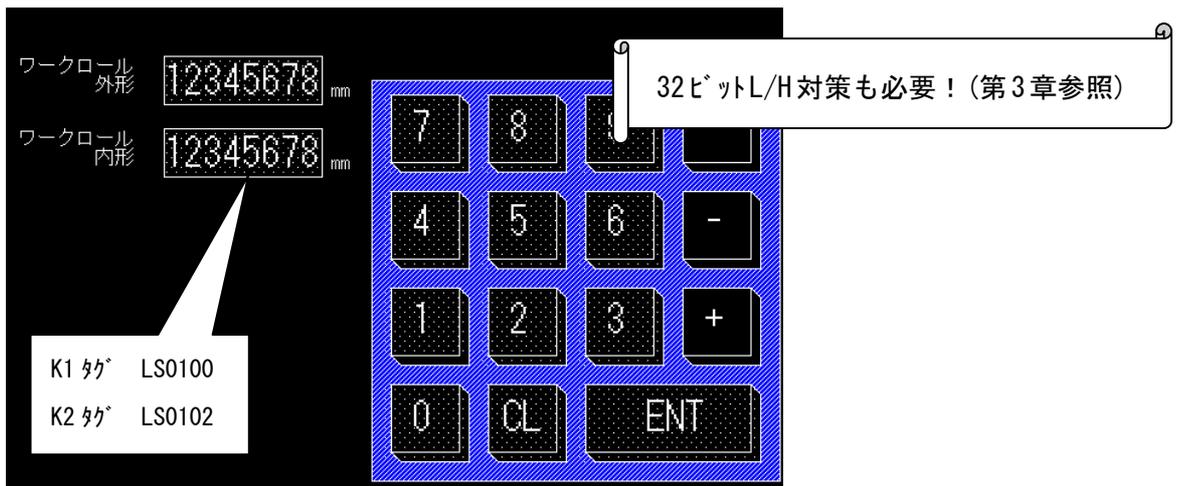
Case3 : N699、Kタグ、Nタグ 32ビット各2個 (各K、Nタグアドレス同一) の場合



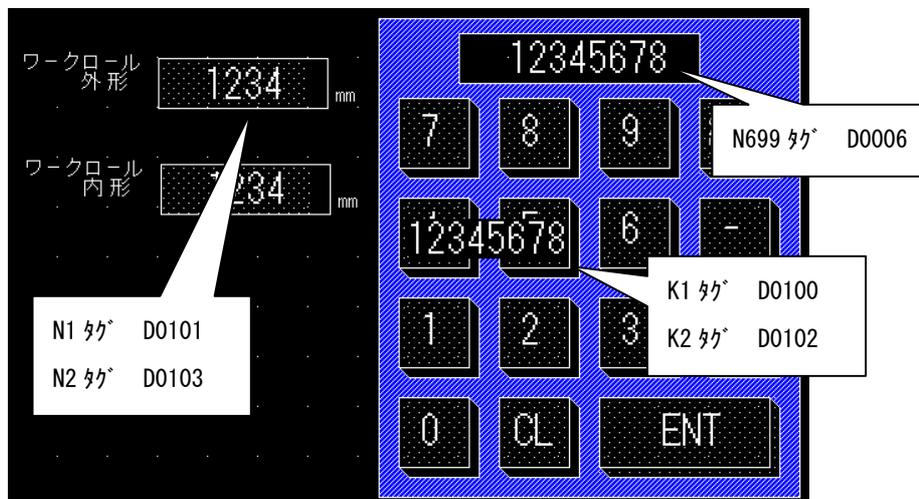
N699 タグ	D0006	32 ビット BCD	8 桁		
K1 タグ	D0100	32 ビット BCD		K2 タグ	D0102 32 ビット BCD
N1 タグ	D0100	32 ビット BCD		N2 タグ	D0102 32 ビット BCD



<del>N699 タグ</del>	<del>D0006</del>	<del>32 ビット BCD</del>	<del>8 桁</del>	削除	
<del>N1 タグ</del>	<del>D0100</del>	<del>32 ビット BCD</del>	<del>8 桁</del>	削除	
<del>N2 タグ</del>	<del>D0102</del>	<del>32 ビット BCD</del>	<del>8 桁</del>	削除	
K1 タグ	<u>LS0100</u>	32 ビット BCD	8 桁	N1 タグを削除した位置に配置	
K2 タグ	<u>LS0102</u>	32 ビット BCD	8 桁	N2 タグを削除した位置に配置	



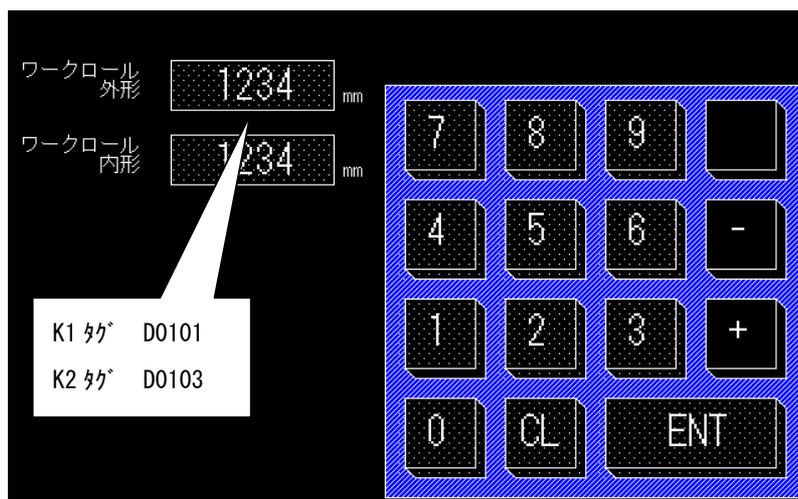
**Case4 : N699、Kタグ、Nタグ 16 ビット各 2 個 (各 K、N タグアドレス同一) の場合**



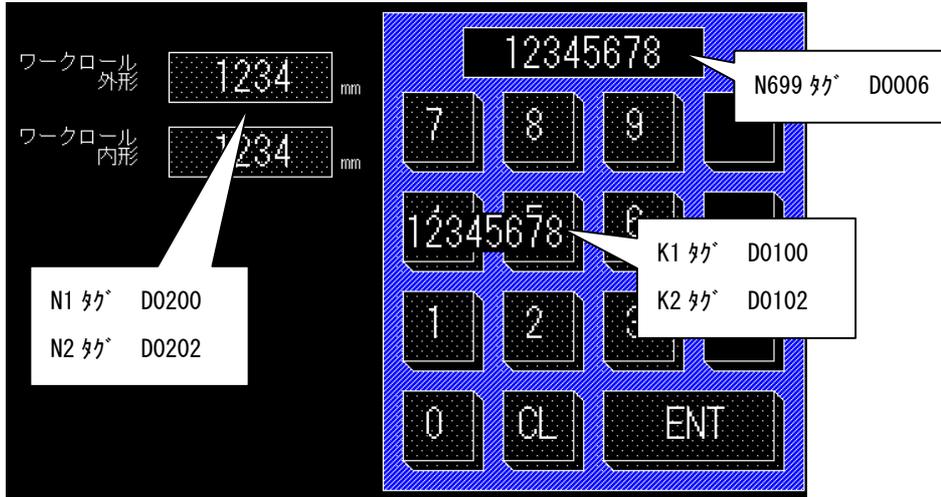
N699 タグ	D0006	32 ビット BCD	8 桁		
K1 タグ	D0100	32 ビット BCD		K2 タグ	D0102 32 ビット BCD
N1 タグ	D0101	16 ビット BCD		N2 タグ	D0103 16 ビット BCD



<del>N699 タグ</del>	<del>D0006</del>	<del>32 ビット BCD</del>	<del>8 桁</del>	削除	
<del>N1 タグ</del>	<del>D0101</del>	<del>16 ビット BCD</del>	<del>4 桁</del>	削除	
<del>N2 タグ</del>	<del>D0103</del>	<del>16 ビット BCD</del>	<del>4 桁</del>	削除	
K1 タグ	D0101	16 ビット BCD	4 桁		N1 タグを削除した位置に配置
K2 タグ	D0103	16 ビット BCD	4 桁		N2 タグを削除した位置に配置



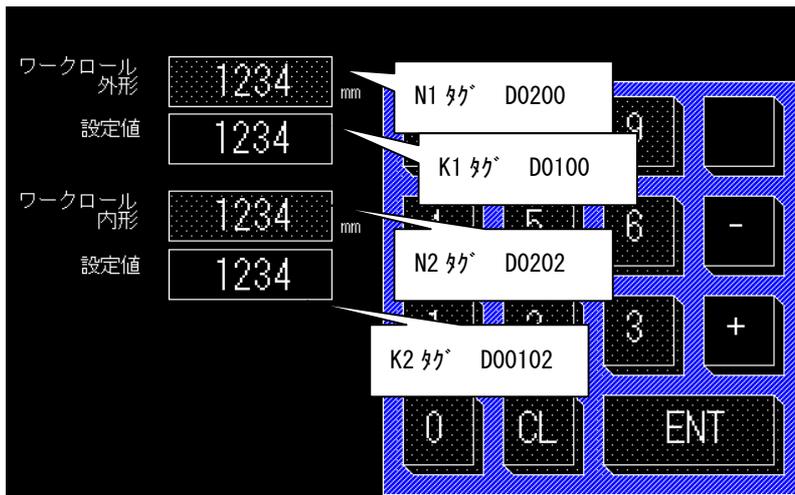
**Case5 : N699、Kタグ、Nタグ 16 ビット各 2 個 (各 K、N タグアドレス異なる) の場合**



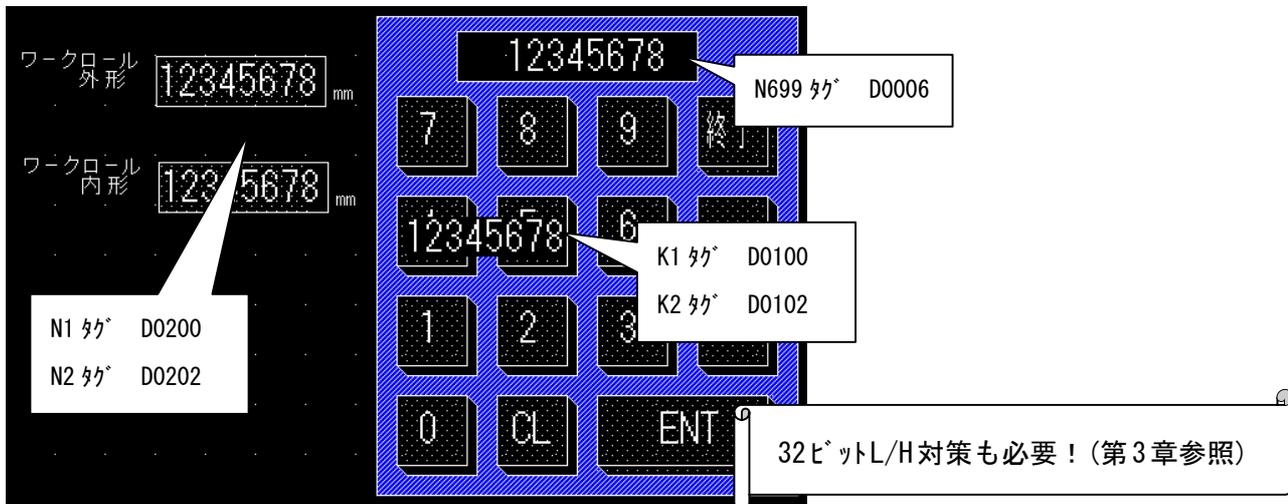
N699 タグ	D0006	32 ビット BCD	8 桁	
K1 タグ	D0100	32 ビット BCD		K2 タグ D0102 32 ビット BCD
N1 タグ	D0200	16 ビット BCD		N2 タグ D0202 16 ビット BCD



<del>N699 タグ</del>	<del>D0006</del>	<del>32 ビット BCD</del>	<del>8 桁</del>	削除
N1 タグ	D0200	16 ビット BCD	4 桁	そのまま
N2 タグ	D0202	16 ビット BCD	4 桁	そのまま
K1 タグ	D0100	16 ビット BCD	4 桁	設定値欄を作成し配置
K2 タグ	D0102	16 ビット BCD	4 桁	設定値欄を作成し配置



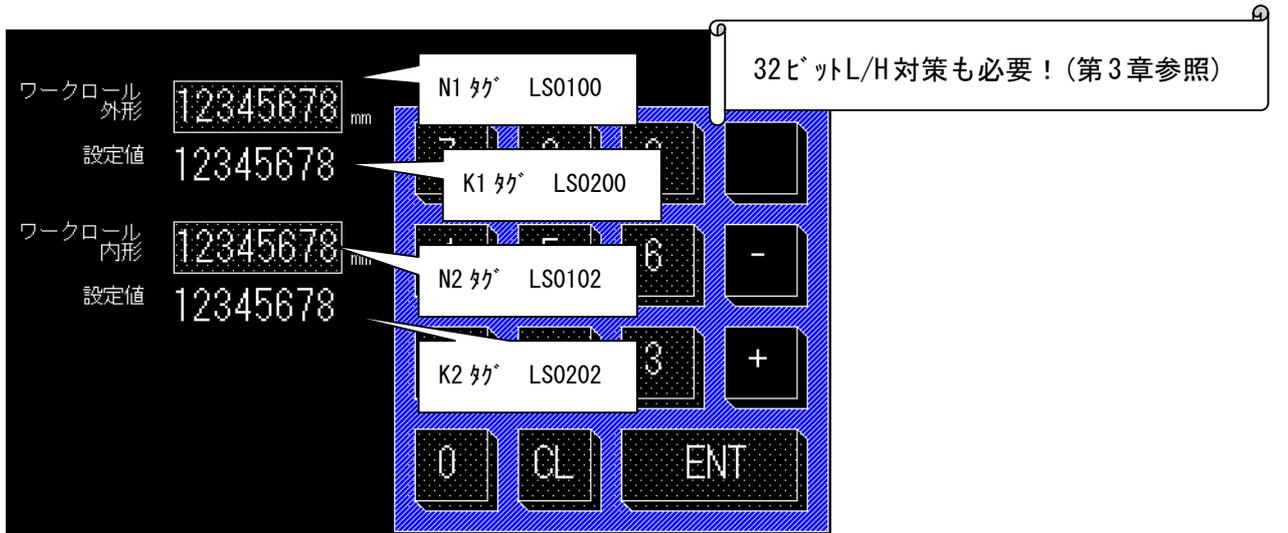
Case6 : N699、Kタグ、Nタグ 32ビット各2個 (各K、Nタグアドレス異なる) の場合



N699 タグ	D0006	32 ビット BCD	8 桁		
K1 タグ	D0100	32 ビット BCD		K2 タグ	D0102 32 ビット BCD
N1 タグ	D0200	32 ビット BCD		N2 タグ	D0202 32 ビット BCD



<del>N699 タグ</del>	<del>D0006</del>	<del>32 ビット BCD</del>	<del>8 桁</del>	削除	
N1 タグ	<u>LS0100</u>	32 ビット BCD	8 桁	アドレスを変更しそのまま	
N2 タグ	<u>LS0102</u>	32 ビット BCD	8 桁	アドレスを変更しそのまま	
K1 タグ	<u>LS0200</u>	32 ビット BCD	8 桁	設定値欄を作成し配置	
K2 タグ	<u>LS0202</u>	32 ビット BCD	8 桁	設定値欄を作成し配置	



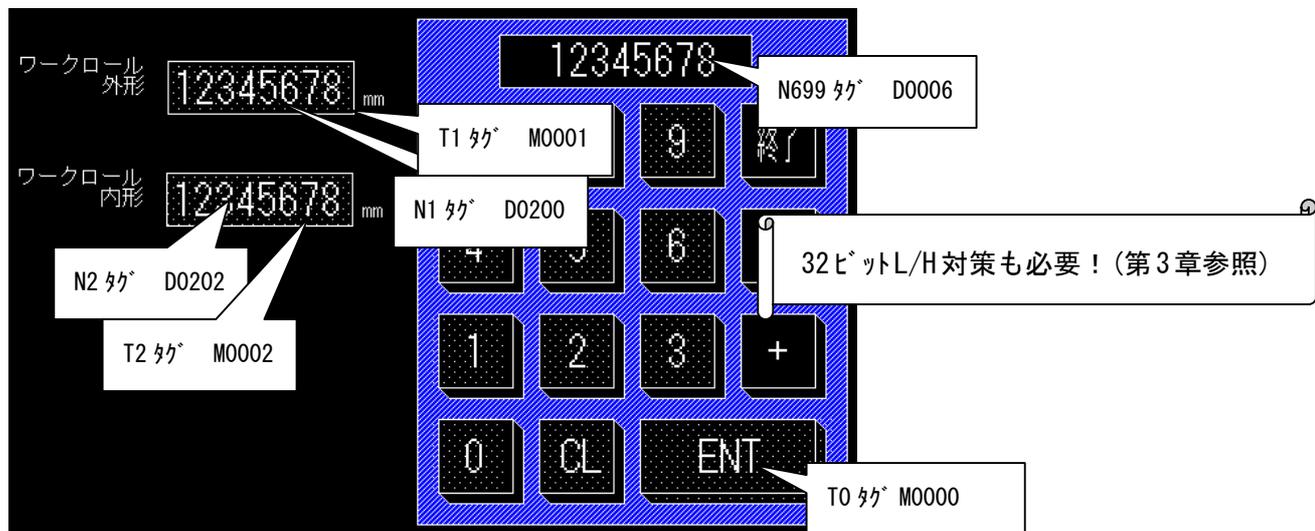
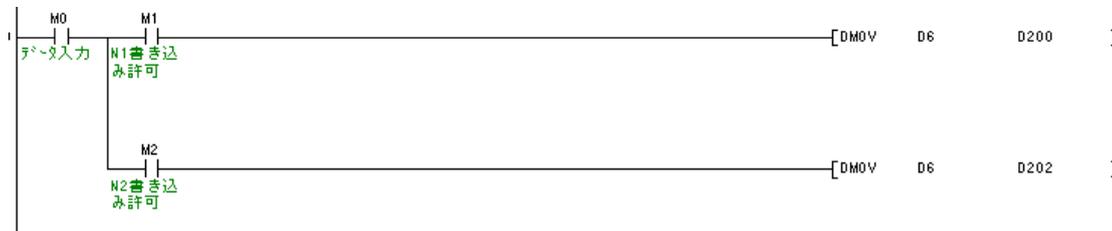
## Case7 : N699、Nタグのみの設定 (Kタグの設定が無い) の場合

※Kタグの設定されていない画面で設定値入力を行っている場合はラダープログラムの変更が必要です。

GP\*10 シリーズの場合 N699 タグにて表示されている数値はシステムデータエリアの+6、+7 のアドレスに 32 ビット BCD で格納されています。

そのため K タグが設定されていない画面で設定値の入力動作を行っている場合は PLC 側のラダープログラムにて+6、+7 のデータをテンキーの ENT キーに重ねて設定した T タグの動作タイミングで転送し設定値の書き込みを行っている場合があります。

### ラダー例



N699 タグ	D0006	32 ビット BCD	8 桁	
T0 タグ	M0000	ビット動作		
N1 タグ	D0200	32 ビット BCD		N2 タグ D0202 32 ビット BCD
T1 タグ	M0001	ビット動作		T2 タグ M0002 ビット動作
システムデータエリア先頭アドレス			D0000	

現在の GP シリーズの動作では、システムデータエリアの+6、+7 のアドレスにはテンキーで入力したデータは格納されない為、PLC 側のプログラムで上記アドレスのデータ転送を行うと正常なデータ書き込みが行われません。

ラダープログラムの転送命令を削除し、PLC 側へデータ設定入力する為の K タグを直接指定ワードアドレスに設定する必要があります。



<del>N699 タグ</del>	<del>D0006</del>	<del>32 ビット BCD</del>	<del>8 桁</del>	削除
<del>T0 タグ</del>	<del>M0000</del>	<del>ビット動作</del>		削除
<del>N1 タグ</del>	<del>D0200</del>	<del>32 ビット BCD</del>		削除
<del>N2 タグ</del>	<del>D0202</del>	<del>32 ビット BCD</del>		削除
T1 タグ	M0001	ビット動作		
T2 タグ	M0002	ビット動作		

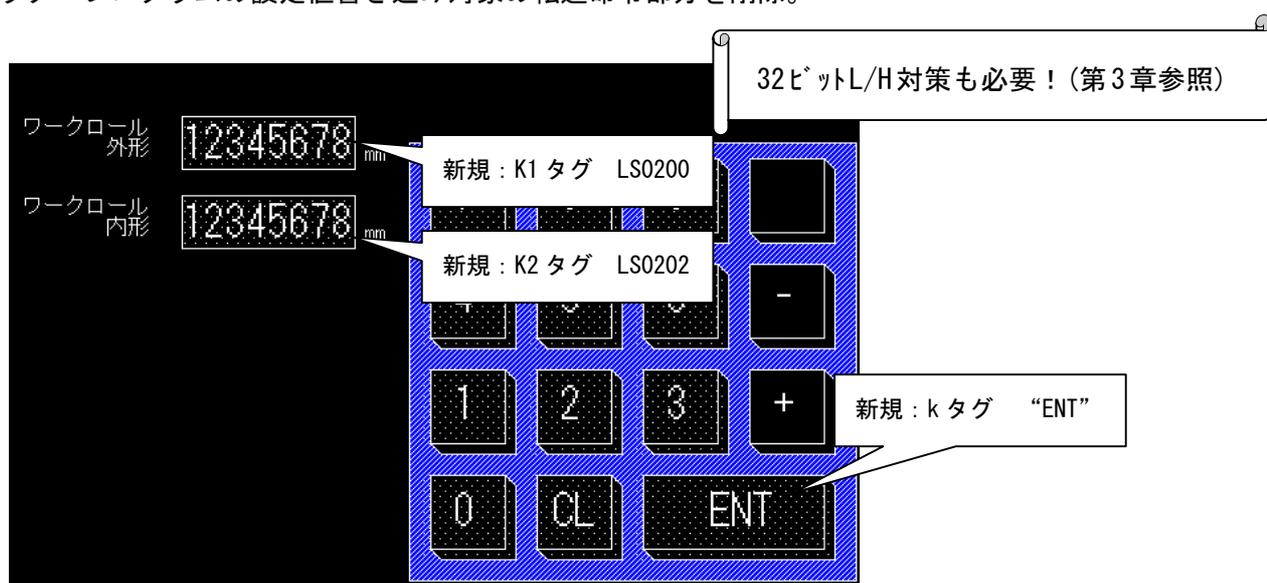
新規 : K1 タグ LS0200 32 ビット BCD 8 桁 起動ビット M0001  
 N1 タグを削除した位置に作成し配置

新規 : K2 タグ LS0202 32 ビット BCD 8 桁 起動ビット M0002  
 N2 タグを削除した位置に作成し配置

新規 : k タグ 動作設定<ENT>

テンキーの ENT キー部分に k699E タグの<ENT>キー機能が設定されていない場合は追加設定

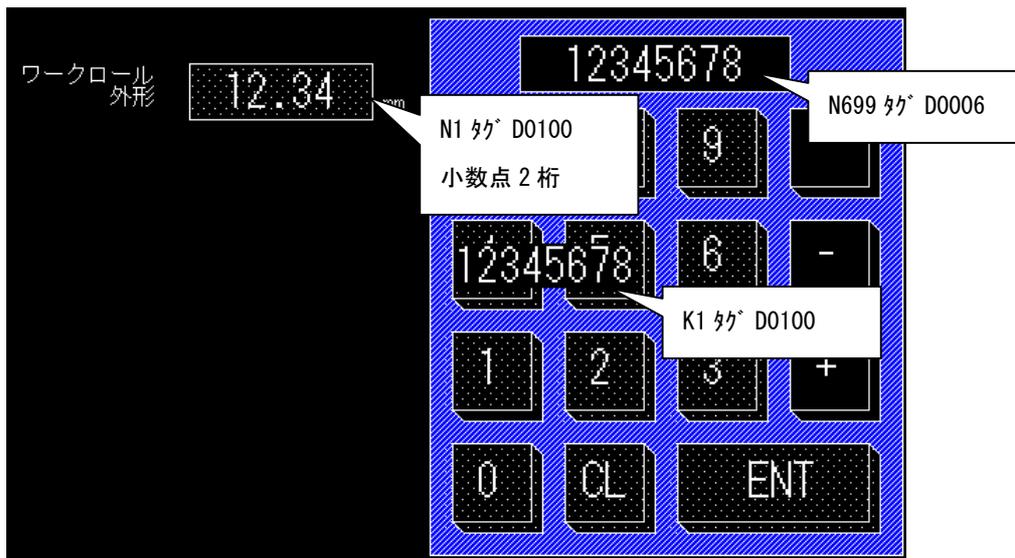
ラダープログラムの設定値書き込み対象の転送命令部分を削除。



## Case8 : N タグに小数点桁表示がある場合 (アドレス同一の場合)

テンキータグ (k) に “.” (小数点) 機能を追加設定する必要があります。

N699 タグで表示されている数値 (32bitBCD) をそのまま K タグで設定されているワードアドレスへ絶対値書き込みを行っている為、小数点桁数に関しては表示部分のみの設定でしたが、コンバート後は K タグ入力時に小数点桁数が設定されている場合はテンキーにて小数点機能の k タグを追加設定し入力する必要がありますので追加設定して下さい。



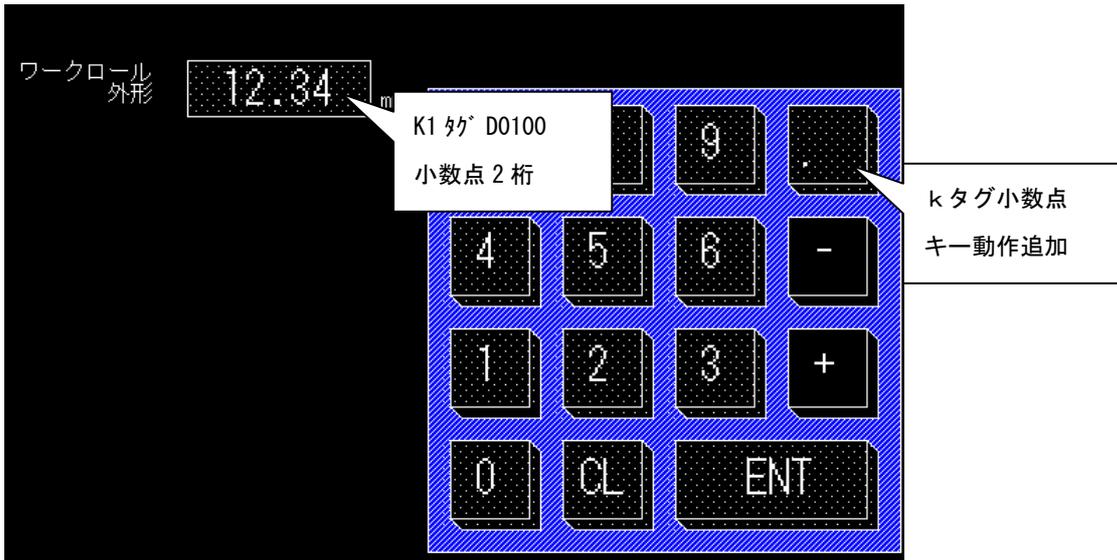
N699 タグ D0006 32 ビット BCD 8 桁  
 K1 タグ D0100 32 ビット BCD 8 桁  
 N1 タグ D0100 16 ビット BCD 4 桁 小数点桁数 2



~~N699 タグ D0006 32 ビット BCD 8 桁~~ 削除  
 K1 タグ D0100 16 ビット BCD 4 桁 小数点桁数 2 N タグを削除した位置に配置  
~~N1 タグ D0100 16 ビット BCD 4 桁 小数点桁数 2~~ 削除

新規 k タグ設定 動作モード→文字 “.” (ピリオド) 追加設定します。





## 5. 折れ線グラフデータ変換時の注意点

- ・ ファイル単位での変換を行う場合、折れ線グラフ画面（T画面）を設定している場合は変換できません。折れ線グラフ画面を再設定する必要があります。  
メモリカード単位（拡張子 GPM）の変換の場合は折れ線グラフ画面を含めた変換が可能です。